

平成 30 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
I 経営	<p>【評価できる点】 小規模なコンサートや発表会にレセプションルームを「気軽に利用いただけるパッケージプランの提供」を開始したことなどの収益構造向上のための工夫や、目標を上回る数の教育機関との連携、オーケストラ団体との連携、MICE 利用の促進などが特に評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 2021 年からの長期休館期間における館の活動、さらにリニューアルオープンをどう盛り上げるか、今のうちから協力いただける組織などとの連携戦略をたてることが重要だと思われます。</p>	<p>【評価できる点】 同じ MM 地域にある横浜美術館を初め、財団所管の文化施設との連携事業や、社会的協働・連携による取組など目標を上回って事業を実施してきたことは、高く評価できる。また周辺の商業施設との交流・連携も順調に進んでいると見られ評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 社会的協働・連携は事業数として目標を上回っているのですが、今後は協働を繰り返すなかで、より質的な面での向上を目指すべく、専門的人材の育成や、外部の専門家や NPO とのネットワークを強化して、文化的commonsのハブ的な存在として総合的に横浜の文化の向上、都市の活性化に寄与することを期待する。人的資源の拡充については、ホールという文化施設のレベルだけでなく、複数の文化施設の指定管理者という立場から、本部機能との役割分担を再整理して、より効果的な経営を目指して欲しい。</p>	<p>【評価できる点】 地域との連携に前年より力をいれていること評価いたします。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 各部門性に応じた適切な人材配置を毎年行っているとのことですが、今回の協賛金の獲得・チケット販売の不振を考えると情報収集の部門の強化が必要と考えます。 そのための人材の確保・育成には多額の資金が必要となってきますが、この部門に関して外部に外注するとか適切な方法が考えられます。 より早く情報を獲得・分析することにより、収入の増加につながり、新たな事業を展開できるのではないかと思います。</p>	<p>【評価できる点】 オーケストラ・室内楽公演以外の期間についても高い稼働率が達成されており、ホールが活用されています。財団が関与する他施設と効果的に連携する姿勢がみられます。 専門性を発揮できる組織体制の効果について、委員会の質疑の中で具体的な事例で説明をいただき、理解できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 横浜市の文化政策を念頭に置く活動と、みなとみらい地区の文化施設としての活動を両にらみにプロジェクトを構成し、かつ実践していることを高く評価します。 他文化団体や施設との連携、教育機関との協働はもとより、ホール内施設の活用にも努めるなど、小回りの効いた活動に注力することで、旗艦文化施設としての存在感を高めています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 経営方針としての軸足を啓発的活動の充実にとりか、ホールの仕様が求める芸術面での質の担保に置くのか-これは二択の問いではありませんが、ホールとしての活動全体のメリハリをつけ、その独自性を打ち出すにはどうしたらいいかとの問いに、三つのトリエンナーレ(ヨコハマトリエンナーレ、横浜音祭り、Dance Dance Dance @ Yokohama)との連携を活用する考えがあると伺いました。ぜひ積極的に取り組んで下さい。</p>

平成 30 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
Ⅱ 事業	<p>【評価できる点】 ホールの魅力の一つである、数々のオーケストラや室内アンサンブルによる優れたコンサートの回数が確保されました。オペラ、現代音楽、オルガンコンサートなどの多彩な演奏会企画もみなとみらいホールならではのものだと考えます。加えて、様々なターゲット層に対する数多くのイベントが企画され、多数の参加者を迎えたことも評価できます。特に子どもを対象とした事業が好調だと見受けられます。こうしたニーズを今後につなげていっていただければと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 顧客満足度は高く、いらしていただければその良さがわかり、東京に行かなくても、横浜の素敵な環境で、素晴らしいコンサートを聞けるという点が、もっと周知できないかと思います。細かいことですが、資料2に「目指す成果」と書かれていたり、あるいは「目指す成果／アウトカム」と書かれていたりする点が気になりました。ですが、アウトカムの意味を捉え、前後の流れを把握したうえで、しっかりとロジックモデルを作っていくことが必要な段階だということにも思いが至ります。</p>	<p>【評価できる点】・【更なる取組を期待する点】 「1 ドルコンサート」や「クラシック・マチネ」のように、コアなクラシックファン以外の層に向けた企画は「定番」として定着していて、その点は高く評価できるが、コアなファン向けの企画に関しては苦労しているように見受けられる。 若手演奏家や作曲家育成など音楽文化の担い手への継続的な取組は高く評価したいが、一方若者のクラシック音楽離れが進むなかで、子どもだけでなく、中学生・高校生に向けての普及プログラムなど地道な取組も求められよう。 また社会包摂的な事業も大学やNPOと連携して各種取り組まれており評価したいが、まだそうした外部団体への依存が大きく、ホール内にノウハウの蓄積（特にコーディネート機能）をはかるべく、より専門的な NPO との日常的な提携（イベント事業だけでなくスタッフの教育も含め）が求められる。</p>	<p>【評価できる点】 それぞれの取組の中で 30 年度の達成指標を上回っていることは、評価いたします。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 低料金無料コンサート 前年と較べ約 5,700 人が増加しております。 目的がこれらの鑑賞者育成のための入門用事業としての取組としては、とても有意義だとは思いますが、これに伴う支出とのバランスを考えると、より以上の収入増が必要となります。そのことを踏まえ 収入増になるための事業展開を期待します。</p>	<p>【評価できる点】 オーケストラ・室内楽ともに質の高いプログラムを提供できたと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 委員会でクラシック音楽ファン層の高齢化にともなうファンの減少を危惧する意見が聞かれました。本館だけで対処できる問題ではありませんが、若い世代のクラシックファンの育成にさらに取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 昨年度同様、質・量ともに充実した公演事業展開です。国際水準の演奏家を擁する公演から、普及活動に心を砕いた活動まで、極めて幅のひろい取り組みが行われています。 若手音楽家の育成と、子どもを対象とした未来の聴き手育成は、みなとみらいホールのユニークな取組がよく表れている事業として、高く評価します。 公演事業は、レストランの定番メニューに似て、その店独自の、変わらない味と質感を安定的に提供することが肝要です。地場産品を活かすのもセールスポイントになります。その意味で、みなとみらいホールのラインアップは、首都圏コンサートホールにミシュランがあれば、十分星三つ取れるものになっていると思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 課題として、クラシック音楽公演チケットの「高額」感が販売目標に届かない一因となっていて、コア聴衆以外への訴求があげられています。ただ、他ジャンルの来日演奏家の公演チケット料金も似たような高騰を示していて、値段だけに留まらない理由があるのではないのでしょうか。広報や販促費の増強、チケット価格の見直しなど、事業収支の枠組みを再考するとありますが、興行ジャンルとしてのクラシック音楽の「弱み」を改めて見直し、専用ホールに運命づけられたこのジャンルの公演をどう位置づけるかは、喫緊の課題です。コア聴衆の支持も維持しつつ、クラシック音楽を「別の聴き方」で捉えている人たち（アニメやフィギュアスケート、CM や映像の BGM でクラシック音楽に馴染みをもつ人たち）がホールに来て、ライブで長尺の音楽でも楽しむことが出来、その経験に満足を得られる設えの企画をぜひ創造してください。これまでのコンサートのフォーマットを一新する気概を期待します。</p>

平成 30 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
Ⅲ 施設運営	<p>【評価できる点】 少しずつですが、着実にホール内の各施設の利用数が増えています。努力をされていることが見て取れます。今後も継続していただければと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ツイッターの活用を一層はかかっていくことなど、若いアイデアで活性化できる手法をどんどん取り入れていき、費用面での負担を軽減する広報手段の開拓が望まれます。</p>	<p>【評価できる点】・【更なる取組を期待する点】 会議室の利用率アップなど努力は評価したいが、レセプションルーム等を活用した多様なホールの利用促進は今後も検討されたい。特に音楽を楽しむ層の拡大に向けて、パーティ付きのコンサート(あるいは生演奏が楽しめるティーサロン)など、みなとみらいという立地を活かした取組の開発も検討されたい。(ただあまりやり過ぎるのもイメージを損なったり、コアなクラシック音楽ファンからそっぽを向けられる怖れもあり、バランスが重要。)</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 幅広いニーズに対応する仕組みを定着させることができたと思います。 大ホール・小ホール以外の稼働率も高まりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 顧客向けコンサートの開催回数を高めるための施策が必要であると思います。</p>	<p>【評価できる点】 達成実績が目標通りまたは上回る結果となっていることを高く評価します。ホール利用者の属性(貸ホール主催者、観客、見学者、企業イベント利用者、等)を見極め、それぞれの満足度を向上させる、細かい目配り、対応がもたらした結果です。 インターネットを活用した広報も安定的に行われており、今後、40代以下の年齢層への訴求を図る足がかりを確かなものにしつつあります。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 紙媒体が役割を終えつつある中での方針変更(年間事業紹介紙の見直し)は、先見性のある第一歩です。 ホールの大規模補修を好機として、広報媒体の戦略を電子メディアへのシフトをぜひ検討してください。</p>
Ⅳ 施設維持管理	<p>【評価できる点】 目標回数をそれぞれクリアしています。老朽化する施設の維持管理に注意を払っていらっしゃる事が理解できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 安全面への留意をぜひ継続してください。</p>	<p>【評価できる点】 竣工 21 年になるが大きな事故もなく、利用者の安全性・満足度を維持しつつ管理されていることは、当たり前のこととはいえ、評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 定期的にメンテナンスを行い 適切な管理していること評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今後もより適切な管理を行うことを、お願いします。</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 ・安全を第一とした管理方針に基づいた実践がおこなわれています。 ・保有する楽器の保守を念入りに行なっています。 ・みなとみらい地区の主要施設のひとつとしての質感や手抜きのないサービスの提供に配慮し、維持されています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>

平成 30 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
収支	<p>【評価できる点】 資料1から、外部資金調達に関する自己分析を実施したこと、資料2から、外部資金の調達額に見合うような支出の調整を実施したことが読み取れました。これらの点は評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 資料3によれば、全項目中、ほぼ唯一達成できなかった点が、ファンドレイジングの額でした。協賛金および助成金とも目標額に達しなかったことは残念です。各ステークホルダー、各関係機関との連携のもと、少しでも金額の向上が叶うように、目標額に達しなかった原因を共有して、改善策を探るよう努めていただければと思います。</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 近年国の助成スキームが変化している(観光インバウンドや社会福祉への波及効果を求める傾向)。(そうした傾向にはやや問題が無いわけではないが)助成金獲得に向けてはある程度そうした変化を踏まえ、企画意図をそれらに合致させなければならず、一層の研究が求められる。特に、企業メセナなど民間からの支援獲得への努力を求めたい。</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 29年度30年度収支報告書ともに赤字となっています。30年度の収入の減少は助成金等の減少・チケット販売の減収でした。経営の評価と重なりますが、情報収集の弱さが表れたと思います。助成金等の減少により、事業の縮小を余儀なくされます。より以上の事業の展開ができないとなれば、魅力が損なわれる懸念があります。情報収集の部門の強化の課題を克服し、助成金等の確保・適切なチケット販売価格の設定をし収入の増を図ってください。</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 外部資金が目標を下回る場合の対応方針を事前に準備しておいたほうがよいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 助成金獲得が不調であったことをカバーするのは大変だったと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 外部資金の獲得は、公立文化施設運営の要のひとつではありますが、国からの助成の現況はいささか思わしくないのが実情です。特にクラシック音楽専用ホールでの中心事業となるオーケストラ公演を、芸術文化支援助成が求める条件を満たした文脈で語り、それを支える思想で説得するレトリックを創り出す必要があるでしょう。事業の全体像を再確認し、言葉にする良い機会として、戦術レベル(誰が選定するのか、その人がどういう傾向の人なのか等の情報収集)だけではなく、戦略レベルでの取組を期待します。それでも助成が得られないなら、それでよし、くらいの気構えて。</p>
	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
組織	<p>【評価できる点】 専門性の高い専門家の起用、あるいは組織内への専門性の高い職員の配置を行うなど、組織の体制を強化する努力を具体的に実施している点は大いに評価できます。研修事業も職員の方が全員参加するなど、積極的に実施されています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 開館20周年を迎え、人材の経験値が上がっていることと思いますが、それを経験年数の浅い人材にどのように伝えるのか、会館の専門職員をはじめとする高度なスキルを持った人材を育てることに努めていただければと思います。</p>	<p>【評価できる点】 専門性の高い職員の配置や(社会包摂の推進に向けた経験のある)プロデューサーの起用など評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 職員の能力向上に向けては、雇用条件の安定化が欠かせない。長期的な視点を持ってキャリア形成が可能な雇用のあり方について更に検討されたい。また財団内での人事異動についても、経験知が活かせるような観点から進めていただきたい。</p>	<p>【評価できる点】 特筆すべき事項無し。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 高い専門性を発揮することを意識した組織の形成が図られています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特筆すべき事項無し。</p>	<p>【評価できる点】 経営、事業、施設運営などの各セクションでの専門性をきちんと視野にいれた人員配置と専門性の尊重が行われています。ホールが持つ特異性(特徴)を活かせる専門スタッフがインサイダー(内部人材)として定着していることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 全般に「ホールの仕事」は極めて属人的です。その属人性がホールの「風物」になり、親しみを感じさせる接点となり、愛されるホールを実現させます。組織論としては、属人性が問題とされる場合もありますが、それを否定するのではなく、「属人的」の所以のものを伝承し、「ホールの顔」を二代目、三代目につないでいく工夫を期待します。</p>
	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
その他・留意事項		<p>財団所管の他の文化施設との連携は、来年度の大規模修繕時におけるみなとみらいホール外での活動に向けた課題発掘という側面から、そこで得た経験を活かして大規模修繕時の計画を立てて欲しい。</p> <p>また(昨年も述べた)人材育成(問題意識のある中堅・若手職員を海外派遣し、クラシック音楽普及プログラムやオーディエンス開発に向けた取組事例などについて学ぶことも含め)について、市とも話し合い、本格的な準備を進める必要がある。</p>			

平成 30 年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
総括	<p>開館20周年という大きな節目を迎えた年でした。業務評価のうち、ほぼすべての項目において、目標値を上回る成果をあげたことは大いに評価でき、素晴らしいと思います。ファンドレイジングがほぼ唯一の未達事項となりましたが、外部とホールとの情報共有、さらに連携構築の状況が、この点に何等かの影響を与えていないか、分析する必要があります。</p> <p>横浜市の誇る専門ホールとしてのあり方を見つめ、多くの事業を展開する中で、みなとみらいホールのブランドを最大限に活かしてそのプレゼンスを確保することが肝要です。この点は、広報戦略にも直結します。また、ホールの老朽化に伴う、様々な対応が迫られる中での対応は大変だと思いますが、ホールをどのように見せていくのかについて、ホール関係者が一丸となって戦略を作り、道筋を確保してゆくことが望まれます。</p>	<p>みなとみらいホールに限らず、近年クラシック音楽離れが進んでおり、近隣地域の中小ホールでは(正統的な)クラシック音楽公演は減少している。みなとみらいホールは市内唯一のクラシック音楽専用ホールとして、クラシック音楽ファンを育成するとともに、都内・県内の他のコンサートホール等とも協力し合っ、大局的な視点から首都圏の音楽文化発展に向けた取り組み(演奏会だけでなく、そのための普及教育プログラムの開発など)のリーダーシップをとることが求められよう。</p>	<p>総合的には、事業の取り組み方等は評価できません。</p> <p>今後 消費税の増税により、景気の悪化が懸念されます。</p> <p>そのことをふまえ、今後どのように事業を展開していくのか一層の難しい経営が予想されます。</p> <p>収支バランスと施設の魅力、大変だと思いますが、横浜市民として、誇れる施設であることに期待します。</p>	<p>多様な事業に取り組み、成果をあげていると思いますが、基本的には、オーケストラ・室内楽公演が重要な「点」であり、それら公演以外の日々のホール各種事業は点を結ぶ「線」という位置づけになると思います。クラシックファンの減少が重要な点の衰退につながることを危惧します。休館中の長期的かつ重要な検討課題としていただければと思います。</p>	<p>評価委員として、3回目の評価委員会になりますが、改めて、横浜市の旗艦文化施設として、みなとみらいホールが担っている、かつ果たしている役割の、多岐にわたることに感じ入ります。この仕事に就く横浜市芸術文化振興財団のみなさんに、心から敬意を表するとともに、本当にお疲れさまです、と申し上げたい。</p> <p>2021年から1年10ヶ月の大規模改修期間に入るにあたり、これまでの業務評価で上がってきた課題の中から、休館期間にしかできないことをとりだし、本年度から来年度にかけて休館期間の事業プランを作成してはいかがでしょうか。毎年これだけしっかり振り返りを行っているの、課題の蓄積が十分だと思います。</p> <p>ホールとして休館期間に取り組むことを明らかにすると同時に、ホールで働く各人、ひとりひとりの「1年10ヶ月プラン」もつくり、より一層得がたい人財を持つ横浜みなとみらいホールを実現してください。</p>

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 経営 (1)政策目標(経営) 施設が持つ機能を最大限に活かし、総合力ある経営を行う	横浜市の文化政策を実現化するため、専門人材の充実と適切な配置による組織体制の強化に努める。またホールが持つ機能を最大限発揮し、音楽文化を通じて都市活性化に寄与することで地域社会への貢献度を高める。	組織内連携と経営強化 ■専門性が発揮できる体制づくりによる組織力強化	実施	実施	—	■各専門性に応じた適切な人員配置により組織体制を強化	【成果】 開館20周年という節目の年を迎え、これまで続けてきた事業の成果と企画力を総動員して事業をおこなうとともに、利用者が安心して利用できるよう施設運営における安全管理を徹底しました。「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018」や横浜美術館、街や企業とのさまざまな連携拡大、新たな市民参加事業、社会包摂事業にも取り組み、公共ホールの使命と役割を果たしながら横浜みなとみらいホールの魅力と存在感を高めることができました。 【課題】 2021年1月からの長期修繕による休館とその後のリニューアル・オープンを見据え、施設利用者、ビジネスパートナーなどステークホルダーとの情報交換や連携実績を積み重ねることが必要です。	【評価できる点】 社会的協働・連携による取組において、教育機関・オーケストラ団体との協働・連携企画を、それぞれ目標を上回って実施できた点を評価します。アウトリーチだけでなく、ホールに実際に来ていただく企画により、横浜みなとみらいホールを知ってもらえる機会の創出にもつながっています。 【更なる取組を期待する点】 収入向上を目的とした事業開発として、パッケージプランの提供など、新たに取り組んでいる中、新規事業をどのような方々にお知らせし、利用してもらえるかという広報戦略も今後はさらに必要です。 毎年、各専門性に応じた人材配置を行い、稼働率が高い中、自主事業の実施や貸館等の運営を行っています。今後は、これまでのホール運営の知識、経験をつなげていくこと、また、運営、事業、広報それぞれの専門性をさらに高め、横浜みなとみらいホールとしての強みを伸ばしていくことを期待します。
		■収入向上につながる事業開発着手	実施	実施	—	■小規模なコンサートや発表会にレセプションルームを気軽にご利用いただけるパッケージプランの提供を開始		
		財団全体での総合力発揮 □財団所管他施設との連携事業実施 (横浜美術館、大佛次郎記念館)	2プロジェクト	4プロジェクト	A	・9/7横浜美術館で音楽会(モノ展連携) ・9/10大佛次郎記念館サロンコンサート ・1月～2月 横浜ダンスコレクション制作協力 ・10/21 みなとみらいSuper Big Band公演(市民ギャラリーあざみ野・ロビーコンサート)		
		社会的協働・連携による取組 □教育機関との協働・連携企画	2件	5件	A	・オルガン科事業 受入れ5校 ・「学校プログラム」での実施校3校との連携 ・「盲特別支援学校オルガンワークショップ」での盲特別支援学校との連携 ・「だれでもピアニスト だれでもアーティスト」での中村特別支援学でのワークショップの実施 ・昭和音楽大学のインターンシップ研修生、および、茅ヶ崎市立萩園中学校の教員が異業種体験の研修を受入		
		□オーケストラ団体との協働・連携企画	2件	連携事業3件	B	・神奈川フィル公開リハーサル(4回) ・神奈川フィルとの共同音楽講座(3回) ・ハマのJACKとの連携(金の卵、夏休み事業)		
		ホールのある街戦略 □在勤在住者への情報配信	月1回	月1回ほか	B	・「みなとみらい秋まつり」協賛とPR(1回) ・最寄り駅や周辺商業施設に事業広告を掲出し、ホールをアピール(毎月) ・交流イベント(JAZZ Bar at MMホール)実施(2回) レセプションルームで最上級オーディオ機材による選りすぐりのLP・CD音源を楽しむ企画。 ・MMcc世話人会での情報交換(5回)		
□交流事業の実施	年2回	年2回	B					
□街との連携(クイーンモールミュージシャン)	年12回	年12回	B					
MICE利用の促進 □コンテンツ開発と実施	年2回	年2回	B	・MICE利用2回(日本歯科保存学会、フランス映画祭) ・MICE利用PRイベント3回(JAZZ Bar、夕涼みオルガン)				
文化施設連携事業の展開 □他の文化施設との連携事業	2件	4件	A	・横浜美術館で音楽会(モノ展連携) ・大佛次郎記念館サロンコンサート ・みなとみらいSuper Big Band公演(市民ギャラリーあざみ野・ロビーコンサート) ・横浜ダンスコレクション制作協力 ・主催公演のプログラムに横浜美術館企画展情報を掲載				
■Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018の情報発信	実施	実施	—	プロモーションコーナーを特設しPR				
(2)政策目標(経営) みなとみらい21地区及び都心部の活性化及び都市の魅力づくりに寄与します。	周辺の商業施設、専門文化施設間の連携を一層強化し、来館者や来街者が「ホールのある街」を実感できるよう努める。					【成果】 みなとみらい21地区を中心とした来街者、就労者、在住者に対してさまざまに「ホールのある街」をアピールしました。今年度は新たに「夕涼みオルガンコンサート」を開催して、クラシック音楽だけではなく横浜みなとみらいホールを在住・在勤者の皆さんにアピールすることができました。また、商業施設との連携も深まり、クイーンズスクエア内のクリスマスツリーとのタイアップも再開することができました。 【課題】 MICEやユニーク・ベニューに貢献できるよう、引き続きビジネスパートナーを探し、共同でプログラムの開発をおこなうなど工夫が必要です。		

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 事業 (1)政策目標(事業) 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、音楽文化を支える裾野を広げます。	音祭り会期を中心に通常年以上のラインナップを揃え、街の賑わい創出や次世代育成など、音祭り開催主旨の実現をはかる。	(ア)オーケストラ事業 ●井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団 「バーンスタイン生誕100周年記念公演」 ●フルシャ指揮バンベルク交響楽団 ●ラトル指揮ロンドン交響楽団 ●ヤルヴィ指揮ドイツカンマーフィルハーモニー管弦楽団 ●ジルヴェスター・コンサート □顧客満足度	80%	92.3%	A	(ア)オーケストラ事業 ●井上道義指揮神奈川フィルハーモニー管弦楽団 「バーンスタイン生誕100周年記念公演」1,228人 ●フルシャ指揮バンベルク交響楽団 1,510人 ●ラトル指揮ロンドン交響楽団 1,517人 ●ヤルヴィ指揮ドイツカンマーフィルハーモニー管弦楽団1,315人 ●ジルヴェスター・コンサート 1,901人	【成果】 市民の幅広いニーズに対応できる、オリジナリティに富んだ発信性の高い公演や、世界のトップレベルの演奏による公演を開催しました。 ジャンルや対象年齢、価格帯、時間設定など、コアなクラシックファン以外の層に向けた企画は全般的に好調で、特にホールの独自の企画である「1ドルコンサート」や「クラシック・マチネ」などは、リピーターも多くなっており、様々な方に音楽文化を楽しんでいただける環境を創出しています。 顧客満足度・来場者数でも、4つの事業(「オーケストラ事業」「室内楽事業」「多様な音楽ジャンルの事業」「低料金・無料コンサート」)のすべてにおいて、目標設定した数値を上回るとともに、アンケート等でも高い評価を得ています。 【課題】 指標として目標を上回ったものの、高額な料金設定の公演や、コアなファン層を対象とした公演の一部でチケット売上が販売目標に届かないことがあり、ホールの中心的な購買層以外の顧客層の開拓が必要です。 課題解決にあたっては、広報・販促に掛ける支出額や、チケット価格の設定の再検討など、事業全体の収支バランスの見直しが必要と考えます。	【評価できる点】 「1ドル・コンサート」や「クラシック・マチネ」のように、横浜みなとみらいホールならではの企画、また、低料金の公演などが順調に入場者数を獲得し、安定的なファンを獲得している点を評価します。 次世代育成としても、Just Composedや招待国際ピアノ等、開館当時から事業を着実に継続することで、多くの若手を横浜みなとみらいホールから輩出しています。 社会包摂事業についても、様々な団体と協働しながら、積極的に新規事業に取り組んでいる点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 チケットが高額な公演や、クラシック音楽に詳しい方を対象とした公演で、目標に届かなかった事業があります。これらは施設運営の収支に影響を及ぼすことから、事業の実施や広報にあたって、今まで以上に研究し、戦略を立てて臨む必要があります。市内唯一のコンサートホールである横浜みなとみらいホールとして、引き続き、質の高い音楽を、より多くの方に届けることを期待します。 開館20周年を経て、今後、大規模改修のための長期休館も予定されており、横浜みなとみらいホールの存在感を、これまでと違った形でアピールする時期となりました。 社会包摂事業については、音楽ホールである横浜みなとみらいホールとして、参加者の方にどのような音楽の体験してもらおうかという点で、今後も更なる工夫を期待します。
		(イ)室内楽事業 ●ディオティマ弦楽四重奏団 ●フォーレ四重奏団 ●石田組 ●イブラギモウア(Vn.)&ティヘルギアン(Pf.)公演 □顧客満足度	80%	92.5%	A	(イ)室内楽事業 ●ディオティマ弦楽四重奏団 174人 ●フォーレ四重奏団 262人 ●硬派弦楽アンサンブル「石田組」1,710人 ●イブラギモウア(Vn.)&ティヘルギアン(Pf.)公演 381人		
		(ウ)多様な音楽ジャンルの事業 ●こどもの日コンサート ●ヤング・アメリカンズ・ショー ●デーモン閣下の邦楽維新Collaboration □顧客満足度	80%	94.9%	A	(ウ)多様な音楽ジャンルの事業 ●こどもの日コンサート 3,555人 ●ヤング・アメリカンズ・ショー 1,308人 ●デーモン閣下の邦楽維新Collaboration 827人		
	(エ)低料金・無料コンサート(これからの鑑賞者育成のため入門用事業として定期的に開催) ●オルガン1ドルコンサート(クリスマス含む) ●みなとみらいクラシック・マチネ ●心の教育ふれあいコンサート □顧客満足度	80%	92.8%	A	(エ)低料金・無料コンサート ●オルガン1ドルコンサート (クリスマス1,795名含む) 15,539人 ●みなとみらいクラシック・マチネ 5,808人 ●心の教育ふれあいコンサート 34,397人			
(2)政策目標(事業) 新たな音楽文化を提案する、優れた創造・創作の拠点となります。 総合展開 横浜芸術アクション事業計画	創造の場・創作拠点として音楽芸術文化の発展に貢献。	ア 独自性の高い事業 (ア)ホールオリジナルのオペラ・ガラ公演 ●パティストーニ指揮東京フィル「オペラ・ガラ・コンサート」 □顧客満足度	80%	95.4%	A	(ア)ホール企画のオペラ・ガラ公演 ●「アンドレア・パティストーニ指揮 東京フィルハーモニー交響楽団 魅惑のオペラ・アリア・コンサート」1,256人	【成果】 構造上、オペラ上演に適していないホールにおける取組として、ホールの独自企画による「オペラアリアコンサート」を開催。次世代育成に繋がる内容として、音楽表現に定評のある話題の若手指揮者を起用しました。 「Just Composed」では、その難解さや知名度の低さなどから敬遠されがちな現代音楽作品を、実力と人気を兼ね備えた若手奏者を起用することで、一般に訴求し聴衆層を広げること寄与しました。 「GRAND ORGAN GALA」は、開館20周年、そして、開館以来親しまれてきたパイプオルガン「ルーシー」の20歳を記念する華やかな企画として開催しました。 横浜芸術アクション事業は、次世代育成・社会包摂・Dance Dance @ YOKOHAMA 2018との連携と、横浜市の魅力向上や地域の賑わいの創出という目的に寄与する、ホールならではの良質で多様な企画を多数実施しました。 【課題】 社会的包摂系の企画は、これまでのホールの中での経験やノウハウの蓄積が少ない分野であり、東京藝大をはじめとする協働相手とのより一層の連携の強化が必要となっています。 3年に一度の音楽フェスティバル「音祭り」、2020年のオリンピック・パラリンピックを目前に控え、地域の中核的文化施設として創造・発信機能を、限られたリソースの中でより効果的に発揮するため、既存の事業と新規の企画のバランス・組み合わせを検討していきます。	
		□総入場者数	1,200人	1,256人	B	(イ)現代作曲家シリーズ ●「Just Composed2019」390人		
		(イ)現代作曲家シリーズの開催 ●若手作曲家を起用した「Just Composed2018」 □入場者数	200人	390人	A	(ウ)オルガン・シリーズ ●「GRAND ORGAN GALA パイプオルガンLucyガラ・コンサート」1,283人		
	(ウ)「オルガン・シリーズ」の開催 ●オルガン20周年ガラ・コンサート □入場者数	500人	1,283人	A				
「横浜芸術アクション事業」の実施		イ 横浜芸術アクション事業 ●こどもの日コンサート(2,400人) ●おやこオペラ教室(200人) ●金の卵見つけました(250人) ●フォーレ四重奏団(300人) ●心の教育ふれあいコンサート(30,000人) ●Just Composed 2019 in Yokohama(200人) ●音と光の動物園(20人) ●人差し指のピアノ事業(250人) ●市民参加吹奏楽事業(500人) ●ヤング・アメリカンズ・ジャパントゥア-2018 ●音と舞踊の小品集(1,200人) ●ノスタルジー・パリ(1,200人) □顧客満足度	80%	93.8%	A	イ 横浜芸術アクション事業 ●こどもの日コンサート 3,555人 ●おやこオペラ教室 478人 ●金の卵見つけました(予選会含む) 455人 ●フォーレ四重奏団 337人 ●心の教育ふれあいコンサート 34,397人 ●Just Composed 2019 in Yokohama 390人 ●音と光の動物園 33人(子ども+保護者) ●だれでもピアニスト だれでもアーティスト 334人 ●わくわくプラス! 652人 ●ヤング・アメリカンズ・ジャパントゥア-2018 1,308人 ●音と舞踊の小品集 1,427人 ●ピアノサロンコンサート(ノスタルジー・パリ) 521人 ●バンベルク交響楽団 弦楽アンサンブルによるコンサート 562人 ●からだできくオペラ 22人		
		□合計入場者数	37,520人	44,471人	A			

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(3)政策目標(事業) 次代を担う芸術家、音楽と市民をつなぐ人材を育み、活動の機会を提供します。	若い音楽家の育成や支援を取組む。	ア 若い音楽家の育成や支援 (ア)演奏会への出演 ●「バーンスタイン生誕100周年記念公演」「みなとみらいクラシック・マチネ」等への登用 (イ)現代の作曲家育成 ●Just Composed 2018 in Yokohama開催 □若手作曲家 登用 ●関連プレトーク開催 (ウ)一流奏者の指導を少年期から体験させる ●「みなとみらいSuper Big Band」 □「Big Band」参加人数 ●「オルガン体験弾いてみよう」 □「オルガン」参加人数 ●「金の卵探しています」 □「金の卵」申し込み (エ)オルガニスト育成 オルガニスト・インターンの育成 ■1年をかけて1名育成 (オ)ピアニスト育成 第36回横浜市招待国際ピアノ演奏会の開催 □若手ピアニスト起用	10人	12人	A	(ア)演奏会への出演 ●若手歌手/演奏家登用12人 (イ)現代の作曲家育成 ●若手作曲家 1名(酒井健治)の登用 ●プレトーク「白石美雪によるJust Composed 2019の楽しみ方」45人 (ウ)一流奏者の指導を少年期から体験させる ●「みなとみらいSuper Big Band」38人参加 ●「オルガン体験弾いてみよう」66人参加 ●「金の卵探しています」38人申し込み (エ)オルガニスト育成 1名(山司 恵莉子)をインターンに採用し、育成 (オ)ピアニスト育成 若手ピアニスト4名を起用して開催	【成果】 次世代を担う人材の活動の場として、クラシック・マチネ、Just Composed、1ドルコンサート、学校プログラムなど幅広い企画で若手音楽家を登用して、研鑽と実践の機会を提供しました。 また、Super Big Band育成活動では、昨年度に続いての金沢遠征や、それをきっかけとした他都市の青少年バンドとの交流、近隣施設でのライブの増加など、継続して活動してきた成果が、メンバーの技術やモチベーションの向上や、知名度の上昇、活動機会の増加などとして形になってきています。 芸術家や音楽と市民をつなぐため、地域の音楽組織や多様な専門知識・ネットワーク等を有する組織との協働を多数実施しました。特に、次年度の「音祭り」に向けて、社会包摂と普及啓発事業として、普段ホールに来る機会の少ない方や障害のある方に音楽文化に触れる機会を提供するためのプログラムを実施し、今後のより円滑な実施・立案のためのノウハウを順調に蓄積しています。	
	芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成に取組む。	イ 芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成 音楽大学・NPO・企業との連携事業 □提携事業数	5事業	8事業	A	イ 芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成 ・第10回国際シニア合唱祭(共催:NPO法人ゴールデンウエーブ) ・第38回ハマのJACK演奏会 金の卵見つけました、夏休み子ども企画(共催:NPO法人ハマのJACK) ・おやこオペラ教室(協力:NPO法人横浜シティオペラ) ・バンベルク交響楽団 弦楽アンサンブルによるコンサート(協力:西区地域自立支援協議会) ・ヤングアメリカンズ・ジャパンツアー 2018(共催:NPO法人じぶん未来クラブ) ・発達障がい支援ワークショップIN横浜「音と光の動物園」(共催:東京藝術大学COI拠点、公益財団法人ベネッセこども基金、NPO法人ADDS) ・からだできくオペラ(共催:東京藝術大学COI拠点、RamAir.LLC) ・だれでもピアニスト だれでもアーティスト(共催:東京藝術大学COI拠点、協力:横浜市立中村特別支援学校、西区地域自立支援協議会、ヤマハ株式会社、株式会社ヤマハミュージックジャパン、株式会社ヤマハミュージッククリテイリング)	【課題】 現状、社会包摂や普及啓発事業の実施のための資金は、外部からの助成等に頼る部分が多く、長期的・安定的な実施のためには財源の安定的な獲得が並行して必要となります。資金獲得のため、企画自体の質の向上を図るとともに、「ホールならでは」や「公共ホールとしてのニーズの高さ」などといった外部に向けたPRも積極的に行う必要があります。	
(4)政策目標(事業) 未来を担う子どもたちに音楽を知り、学び、体験することができる機会を設けます。	子ども対象の音楽による創造活動の体験の機会を施設内外で提供する。また、障がいのある子どもや介助を必要とする子どもなどへの取組を行う。	(ア)夏の時期の家族向けフェスティバルの実施 ●夏休み子ども事業(3日間開催) □顧客満足度	80%	92.6%	A	夏休み子ども事業として、「こどもオルガン1ドルコンサート」「ホールわくわく探検隊」、「パイプオルガンを弾いてみよう」、「おやこオペラ教室」、「みなとみらいSuper Big Band コンサート」、ハマのJACKとの共催事業などを実施しました。	【成果】 夏休み子ども事業は、3日間の開催で多数の来場者があり、幅広い観客層に向けたプログラムで、普段はホールへ来場することの少ない層へも訴求することができました。 子どもを対象とした鑑賞事業は、目標を大きく上回る来場者となり、音楽に触れさせたいという保護者の方の強いニーズが感じられました。 継続して開催している、盲特別支援学校児童のオルガン体験と発達障がい児向けの「音と光の動物園」は、学校や共催団体の協力もあり、より効果を高めたり、円滑に実施できるよう、毎回いろいろな工夫を追加した形で開催を続けています。今年度は、オルガン体験で演奏体験の時間が長くとれるようポジティブオルガンを導入(レンタル)しました。また、「音と光の動物園」では、ワークショップの実施場所を2カ所に分けることで、効率的な実施となりました。 【課題】 令和元年度の音祭り期間で予定されている社会包摂事業では、参加者ごとに異なる特性・多様性がある中で、どのように音楽の魅力に触れていただくか、協働相手の専門性も活用し、これまでの取組みをさらに発展させていけるよう進めていきます。	
		□入場者数	3,000人	6,008人	A			
		(イ)こどもを対象とした鑑賞事業の開催 ●心の教育ふれあいコンサート ●0歳からのオルガンコンサート ●こどもの日コンサート □入場者数	34,600人	40,213人	A	●心の教育ふれあいコンサート 34,397人 ●0歳からのオルガンコンサート 2,261人 ●こどもの日コンサート 3,555人		
		(ウ)障がいのある子どもを対象とするオルガンワークショップの実施 ●盲特別支援学校との提携事業 □開催数	年2回	年2回	B	●盲特別支援学校との提携事業(6/19 中学部、7/10 小学部)		
	●音と光の動物園	年1回	年1回	B	●発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」			

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
I 項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(5)政策目標(事業) 音楽文化の持つ可能性、文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会に貢献します。	多様なアウトリーチ等の研究をし、社会貢献する。	(ア)小学校・福祉施設等におけるアウトリーチ事業への取り組み □小学校	3校	3校	B	「学校プログラム」 1/28、2/13、2/25 港北小学校(「作曲・作詞」体験) 1/29、2/5、2/19 日下小学校(「ゴスペル」体験) 2/14 二ツ橋高等特別支援学校(「邦楽(箏)体験」)	【成果】 学校プログラムは小学校2校に加えて、初めて高等特別支援校でもプログラムを実施し、より幅広い方へ音楽に触れる機会を提供するとともに、今後の様々な事業の実施に向けたノウハウの蓄積ができました。 主催公演と関連したレクチャーは、いずれも本体となる公演を、より深く理解し、新たな楽しみ方等、演奏や曲などの様々な気づきをお客様に提供できる機会として、効果的に活用できました。 【課題】 学校へのアウトリーチは、先方の状況に左右される部分も大きく、立案や実施に際して想定よりも時間がかかることがあります。	
		(イ)市内の商業施設等でのアウトリーチを開催(クイーンモールミュージシャン) □開催数	年2回以上	年12回	A	クイーンモールミュージシャン@クイーンモールマーケット8回、みなとみらいスーパー・ビッグ・バンドライブ@クイーンズサークル3回、みなとみらいスーパー・ビッグ・バンド コンボライブ@クリスマスツリー点灯式1回		
		(ウ)レクチャーコンサート(試聴ラウンジ等) □総入場者数	120人	285人	A	□試聴ラウンジ7回 音楽を聴きながらの旅に見立てた音楽講座。音楽の専門家が選定したCDを、トークを交えて、ハイエンド・オーディオで鑑賞。5/17三船優子(ピアノ)、6/24瀧本哲彦(チェロ)、9/23西原稔、10/18池辺晋一郎、11/4大橋晃一、11/23阿部未来、1/14岩淵泰助・中島寛人		
		□その他レクチャー等 開催数	年2回	年4回	A	・「音楽講座 吹奏楽同好会」(わくわくプラス！ 関連企画) ・「吹奏楽わくわくサロン」(わくわくプラス！ 関連企画) ・「白石美雪によるJust Composed 2019の楽しみ方」(Just Composed 2019 in Yokohama 関連企画) ・特別レクチャー 安井耕一&古屋晋一(横浜市招待国際ピアノ演奏会関連企画)		
(6)政策目標(事業) ホールにおいて蓄積された音楽に関する情報やネットワーク、ノウハウを活かし、市民の音楽活動を支援します。	主催事業の記録化、横浜みなとみらいホール公演情報の整理。 音楽情報や国内外の芸術家や機関とのネットワークを活用し、市民の音楽活動へのコーディネーター機能の発揮。	ア 公演情報の記録と整理 ●主催公演の記録	実施	実施	—	「わくわくプラス！」の関連企画として、youtubeチャンネル「横浜みなとみらいホール吹奏楽同好会」を開設 広報販促用のプロモーションとして、webサイトへの動画掲載を積極的に実施しました。	【成果】 「わくわくプラス！」での、事業単独でのyoutubeチャンネルの開設は、ホールとしては初めての発信手法でしたが、沢山のアクセスがあり、企画のPRと参加者の一体感やモチベーションの向上につながりました。また、スタッフに動画配信に関するスキルを蓄積することができました。 【課題】 積極的な動画活用の有効性が確認できた反面、ホールの内製で動画を作成し定期的に配信することの限界も感じられたため、労力・コストと宣伝効果のバランスを見極めて実施する必要があります。	
		イ コーディネーター機能 □音楽大学学生のインターン受入数	1件	1件	B	昭和音楽大学のインターンシップ研修生1名を受け入れ。		
		■協力公演・貸館公演等の利用者へのコンサート開催支援	実施	実施	—	協力公演では広報協力のほか、当日イベント(バックステージツアーや公開リハーサルなど)への協力なども行いました。貸館においては、受付時の利用説明や事前の下見・打合せ〜当日対応まで利用者・来場者の方に満足いただけるよう対応しました。		

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価				
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価			
3 施設運営 (1)政策目標(運営) 利用者のニーズや利便性に考慮し、柔軟に対応することにより、施設の機能を最大限に発揮します。	柔軟に対応し、市民の創作活動・発表の場として広く認知されるように取り組む。	●地元オーケストラ団体との連携によるレセプションルーム活用事業 □連携事業数	年1回	年3回	A	□「試聴ラウンジ」での神奈川フィルとの連携事業3回	【成果】 主催事業の音楽講座「試聴ラウンジ」はこれまで企業連携の拡大も柱として定期的に実施してきましたが、あらたに神奈川フィルとも連携することにより、双方の主催事業を相互に理解し広報協力する成果が生まれました。また、パッケージプランでの利用を1件受入れました。 日本歯科保存学会、フランス映画祭の受入れなど、通常と異なる利用を受入れ、利用者・参加者・来場者の方々からも満足度の高いお声をいただくことができました。 レセプションルームについては、開館20周年を機に初心を忘れないような基礎的な研修プログラムを取り入れ、サービス向上、対応水準の維持をはかることに努めました。 【課題】 レセプションルームの活用については、活用プランのお問合わせも増えてきていますが、動線や小ホール催しとの調整により、お断りせざるをえない状況もあります。レセプションルームは、音楽に限定しない利用など、受入れ内容の検討も必要と言えます。	【評価できる点】 全諸室の利用率が目標を上回ったことを評価します。 レセプションルームを中心として、様々な方に活用いただき、利用率向上のため、柔軟に取り組んでいる点を評価します。新たな利用者や来場者の方からの声を大事に、今後の運営にいかしてください。 【更なる取組を期待する点】 施設の構造上の課題は、市としても共有しています。 大小ホールの稼働率については、今後、施設点検日をこれまでより多く設定して、施設管理を余裕をもって行うことができる工夫や、ご利用を検討される方が見学できる余地を残した運営手法等、検討が必要です。 30年度は、開館20周年を中心とした広報に力を入れていましたが、20周年を過ぎて、横浜みなとみらいホールをどのように見せ、ブランディングしていくのか、基本的な部分に立ち返って検討する時期となっていますので、引き続き、検討をお願いします。		
		●レセプションルームの利用PR □レセプションルームPR回数	年2回	年2回	B	□ホールの利用申請受付時など、常時PRを行ったが、パッケージプランのPRイベントとしては2回実施 □レセプションルームパッケージプラン利用1回				
	音楽を楽しむ層の拡大に取り組む	●企業等のコンベンションや顧客向けコンサートを誘致し、新たにコンサートホールに足を運ぶ層を獲得。 □開催数	年2回	MICE関連年2回	B	□日本歯科保存学会、フランス映画祭オープニング				
		■ホール音響特性等、利用にあたっての丁寧な説明による柔軟な貸館対応の実施	実施	実施	—					
	日本を代表するコンサートホールに相応しいと感じられる、質の高いサービスを安定的に提供する。		●レセプションルーム研修の実施 □新人研修 採用時2日間、その後2回に分けて実施	採用時2回 他、年2回	採用時3日間実施	B				■計画通りの研修を実施したほか、年度当初に外部講師によるクレーム対応研修を行った。 ■全体研修では、みなとみらい地区の開発等の話を伺った。
			□フォローアップ研修(採用6か月後実施)	年2回	年2回	B				
			□チーフ研修	年1回	年1回	B				
□コーチャー研修			年1回	年1回	B					
□全体研修			年1回	年2回	B					
□避難訓練	年2回	年2回	B							

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画			実績		説明		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績		説明		自己評価	行政評価	
(2)政策目標(運営) 日本を代表するとともに、市民に身近で愛されるコンサートホールとしてのサービスとホスピタリティを提供します。	音楽専門ホールとしての特性を前提としつつ利用促進に取り組む。	●近隣企業への利用促進活動を実施 □近隣企業の顧客向けコンサート開催数	年2件	年5件	A	□企業の顧客向けコンサート5件 ・自動車会社主催:11/13、12/11、12/26 ・新聞社主催:1/8 ・近隣企業主催:1/20	【成果】 企業顧客向けコンサートでは、協力団体との連携を通じ新規の企業のコンサートも受入れ、普段ホールへお越しにならない方にご来場いただけることもあり、ホールのPRにもつながっています。 利用率は、すべての室場において、計画以上の実績となりました。 【課題】 大小ホールにおいては、利用率が非常に高くなっていますが、緊急修繕が発生した場合の対応や、利用者に、よりスムーズなご利用をいただくための利用下見の日程が、かなり限られてしまう現状となっています。	【成果】 開館20周年記念事業を柱とした広報活動、合唱祭や吹奏楽大会など全国から集まる来場者へのアピール、プレスリリースとホームページなどからの情報発信により、横浜みなとみらいホールの取り組みを広報によって拡大することができました。また、ホール利用に関して市民の皆さんへのお知らせを支障なく伝達できたことにより、支障のない施設利用やサービスを届けることができました。 【課題】 これまでアプローチできていなかった新聞記者や雑誌編集者、web媒体などのコンタクトが成功してネットワークを拡大することに成功することができましたが、ペイド・パブリシティによる広報も定期的に実施できるよう事業計画を再考します。		
		□利用率 ・大ホール	95%	97%	B					
		・小ホール	97%	99%	B					
		・リハーサル室	65%	70%	B					
		・レセプションルーム	35%	39%	B					
	・音楽練習室	80%	82%	B						
	利用者のニーズ、満足度等を把握し分析を行い、事業の企画や運営の改善をする。	満足度の高い運営 □レセプション・マネージャーミーティング開催数	年10回	年12回	B					
	利用者の妨げとならないよう配慮した上での可能な限りの施設見学への対応。	□施設見学対応数 (ホール利用下見対応)	年110件	年97件	B	利用下見 77件 視察等下見 20件				
	ホールの発信性を高め、音楽文化の振興に寄与する商品をショップ等で販売	ショップ販売 □オリジナル商品販売	通年実施	未実施 (方針変更)	—	■これまでのオリジナルグッズをホールのノベルティとして広報用に活用				
	チケット販売だけでなくホールチケットセンター	□横浜をPRする物販イベント実施数	6回	7回	B	□「オルガン1ドルプラス」として物販イベント実施7回				
【ドリンクコーナー】主催者の求めに応じ公演開催時に飲料等の飲食サービスを提供できる体制を提供	■業務の基準に従い適切に実施	実施	実施	—						
託児サービスの提供	□HP等を活用した託児サービスの周知回数	年2回以上	毎月実施	—	□HP、コンサートカレンダー等で常時周知					
	■各事業によって異なる来場者・来場者のニーズを想定した、様々な支援の検討・実施	実施	実施	—						
(3)政策目標(広報・宣伝事業) プロモーションの充実	【プロモーションの戦略的取り組み】 適切な商圏・対象層の設定、媒体の選択を行い、効率的・戦略的プロモーションに取り組む。	効率的・戦略的プロモーション ●首都圏への情報発信 □交通広告等の出稿 回数	年1回	0回	C	□交通広告については未実施となったが、各媒体への日々の働きかけにより、情報掲載数は目標を上回りました。 □年間事業紹介紙については、発行費用の節約により、単独の年間カレンダーの発行を見送り、次年度4-6月号に年間ラインナップを紹介した。	【成果】 開館20周年記念事業を柱とした広報活動、合唱祭や吹奏楽大会など全国から集まる来場者へのアピール、プレスリリースとホームページなどからの情報発信により、横浜みなとみらいホールの取り組みを広報によって拡大することができました。また、ホール利用に関して市民の皆さんへのお知らせを支障なく伝達できたことにより、支障のない施設利用やサービスを届けることができました。 【課題】 これまでアプローチできていなかった新聞記者や雑誌編集者、web媒体などのコンタクトが成功してネットワークを拡大することに成功することができましたが、ペイド・パブリシティによる広報も定期的に実施できるよう事業計画を再考します。			
		●プレス懇談会実施によるメディアとの関係構築 □プレス懇談会 開催数	年1回	年1回	B					
		●各媒体との関係強化・情報発信力アップ □各媒体への情報掲載数	月間70件	月平均219件	A					
		●公開リハーサル・ロビーコンサート実施 □公開リハーサル・ロビーコンサート実施	計2回	公開リハーサル 4回 ロビーコンサート 1回	B					
		●コンサートカレンダーの発行 □コンサートカレンダー発行数	年4回	年4回	B					
		□年間事業紹介紙発行 発行数	年1回	方針変更実施	-					
		【WEBツールを用いた取り組み】 WEBツールを活用し、施設案内や公演情報だけでなく利用者が必要とする様々な情報を、見やすく使いやすい形で提供する。	●ホームページでの情報発信 □トップページアクセス数	年35万件	351,808件				B	□ツイッターの情報発信を有効に活用し、フォロワー数も大きく伸びました。
	●メールマガジンでの情報発信 □メールマガジン配信数		月1回	年17回	B					
	□登録者数		7,500名	13,257名	A					
	●ツイッターでの情報発信 □ツイッターでの発信 年間200ツイート		年200ツイート	485ツイート	A					
	□ツイッターフォロワー数		4,000件	6,318件	A					
	●WEBでのチケット販売促進 ■効果と分析	実施	実施	—						

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

(4)条例の遵守	施設の休館日	13	●安全面に配慮し適正な休館日を確保する。 □適正な休館日の確保	30日	34日	B	□大ホールの舞台機構設備更新工事及び各種修繕等に備え施設点検日を追加で確保しました。	【成果】 大ホール舞台機構改修工事(第2期)のためにご利用いただけない日が増加しましたが、横浜市・施工業者のご協力の下、極力利用に影響の出ない形で施設点検日等を設定・調整し、順調な工事の進捗につながりました。 【課題】 早朝利用や深夜利用の希望が多くなっており、どこまで柔軟に対応すべきかということについて、その収益性、費用対効果など引き続き検討が必要です。
	施設の開館時間	14	■9:00~22:00 ■早朝利用、深夜利用など可能な範囲で柔軟に対応	実施	実施	—	■適切に対応しました。	
	利用料金等	15	■条例に基づいた、適切な料金徴収。	実施	実施	—	■適切に実施しました。	
	施設利用の貸出業務	16	■利用者ニーズに配慮し、条例・規則に基づいた貸出。 ■撮影等の利用にも柔軟に対応。	実施	実施	—	■適切に実施しました。	
	貸出に関する留意事項	17	■条例・規則に基づいた、設置目的や利用者の安全に配慮した貸出。	実施	実施	—	■適切に実施しました。	

評価項目		H30年度計画		実施状況			評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明		自己評価	行政評価
4 施設維持管理 政策目標(施設維持管理) 快適な環境を維持するとともに、安全かつ安心して利用できる施設保全	適切な管理の実施	□楽器定期メンテナンス/調律・パイプオルガン	年1回	年1回	B	□計画に基づき適切に実施しました。 ■パイプオルガンについては、保守点検は年1回ですが、日々のメンテナンスが欠かせない楽器であり、毎月のメンテナンスも確実にを行っています。そのため、メンテナンスのために必要な時間とホールの貸館利用のバランスを適切に調整しています。	【成果】 開館20年目を迎え建物・設備の経年劣化が進行していますが、日常点検による劣化箇所の把握や事前保全に努め、年間を通じて安定的に施設を管理運営しました。また指定管理者により、「屋内消火栓ホース交換修繕」「コンサートピアノ高音弦交換」など、利用者の安全性、満足度の向上につながる改修・舞台備品の整備を実施し、安心してご利用いただける施設としての環境作りに努めました。 【課題】 日常的な小破修繕については都度適切に対応していますが、一般的な耐用年数を超えた設備・機器についての都度修繕が増加する傾向にあります。また公演の実施に係わる障害については緊急修繕が必要なため、基準金額を超えた修繕業務についても指定管理者発注による工事とならざるを得ない事例も想定されます。また、2021年度から予定される大規模改修を待てない修繕等も発生する可能性があります。そのため、大規模改修前の利用に支障をきたさないよう、これまで以上に日常点検等を慎重に行う必要があります。	【評価できる点】 30年度は竣工21年目となり、各種不具合が発生していますが、都度、対応し、大きな事故に発展することなく運営している点を評価します。 ホール特有の設備である舞台機構や音響、照明については、委託業者と調整し、必要な修繕内容を把握し、対応に努めています。 ピアノやパイプオルガンなど、楽器のメンテナンスを定期的に行い、利用者の方にとって適切な調整を行っています。 複合施設であることから管理組合との情報交換や関係性の維持は非常に重要であり、適切に対応しています。また、横浜みなとみらいホール専有部分に影響する不具合であっても、複合施設として対応が必要となる修繕など、複雑な案件も発生していますが、必要な連絡調整を行っています。今後も引き続き、横浜市への迅速な情報共有をお願いします。 30年度は、令和2年度から開始する大規模改修に向けて、現場調査等対応が増えています。適切に対応している点を評価します。
		・コンサートピアノ	年1回	年1回	B			
		・練習室ピアノ	年12回	年12回	B			
		・リハーサル室ピアノ	年1回	年1回	B			
		・楽屋ピアノ	年3回	年3回	B			
		1 ■設備不具合や要清掃箇所など日々の連携をはかるとともに、連絡票等での対応チェックを行う。	実施	実施	—			
		■専門業者への委託による専門知識を活用し、修繕時期の決定、省エネ提案などに反映。	実施	実施	—			
		■日々の事業や管理を通じて、改修に必要な情報を指定管理者として横浜市に提供。	実施	実施	—			
	□過失事故件数	0件	0件	B				
	施設維持管理業務	●QSY管理組合事務局会議、管理打合せ等に参加し、周辺との連携を図る。	実施	実施	—	□適切に実施しました。		
		●設備関係の点検・定期整備業務 ■年間計画作成・実施	実施	実施	—			
		●舞台関係の点検・定期整備業務 □客席保守点検:大小ホール共	年2回	年2回	B			
		□舞台照明定期保守	年3回	年3回	B			
		□舞台音響定期保守	年2回	年2回	B			
		□舞台機構定期保守	年3回	年3回	B			
■点検・定期整備事項について、年間計画作成・実施		実施	実施	—				
●設備・舞台スタッフとの小破修繕にかかる情報交換	実施	実施	—					
環境維持管理業務	□空気環境測定	年6回	年6回	B	□適切に実施しました。			
	□照度測定	年2回	年2回	B				
	■ごみ分別の徹底	実施	実施	—				
保安警備業務	4	□過失事故件数	0件	0件	B	□適切に実施しました。		
駐車場・搬入口管理業務	5	□過失事故件数	0件	0件	B	□適切に実施しました。		
6階屋上庭園の取り扱い	6	□植栽の手入れ(専門業者への委託)	年5回	年5回	B	□適切に実施しました。		
		■植栽や屋上の日々の状況把握、横浜市と共有。ウッドデッキの安全確認。	実施	実施	—	□日々の点検の中で、庭園外周部分のぐらつきやウッドデッキの小さな窪みの補修等、安全面を考慮し適切に実施しました。		
							【更なる取組を期待する点】 引き続き、安全な施設運営に注力してください。	

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

防災等	7	■QSY防火防災管理協議会 会議参加	実施	実施	—	□施設内の防火防災訓練について適切に実施しました。またQSY防火防災管理協議会の構成団体として適切に情報を共有しました。
		□防災管理自主点検	年2回	年2回	B	
		□防災設備点検	年1回	年1回	B	
		□消防訓練・防災訓練	年2回以上	年2回	B	
緊急時の対応	8	■施設内での周知の場を設定	実施	実施	—	適切に実施しました。
有資格者の配置	9	●電気主任技術者 ■QSY管理組合の電気主任技術者をもって配置に替える。 ●建築物環境衛生管理技術者 ●ボイラー技師 ■管理センターに技術者を設定(ボイラー含む) ●無線従事者 □無線従事者 2名配置 ●甲種防火管理者及び防災管理者 □防火・防災管理者 職員1名配置	実施	実施	—	所定の要員を適切に配置しました。
		10	■条例および規則に基づき、都度適正な手続きを行う	実施	実施	—
条例で定める業務以外で施設を使用する場合						

【成果】
年度を通じて、複合施設管理者であるクイーンズスクエア管理組合等との情報交換を適切に実施し適切な施設管理を実施しました。

【課題】
ホール内施設管理担当者については次年度以降ホールの長期修繕に向けてより専門的な部分での知識等が必要となります。そのため同担当者については、技術的な専門性を持ち、横浜市との調整等にも柔軟に対応できる者の配置が必要であり、引き続き、安定的な人材確保に努めます。

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
5 その他 政策協働型指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	政策経営協議会の開催	1 ■政策経営協議会の実施	実施	年2回	B	横浜市と調整の上、実施しました。	【成果】 年度を通じて、横浜市との情報交換を適切に実施し円滑な事業推進・管理運営に努めました。
	計画の策定及び業務報告	2 ●モニタリング実施。 □原則月1回(8月2月を除く)	原則月1回	年10回	B	定例モニタリングに加え、事業繁忙期等、必要に応じて事業実施状況について随時追加モニタリングを実施しました。	
		■モニタリング時の情報交換を密にし、次年度の計画につなげる。	実施	実施	—	適切に実施しました。	
業務評価	3	□自己評価・横浜市評価	年2回	実施	—	横浜市と調整し適切に実施しました。	
		■指定管理者選定評価委員会による外部評価、業務視察、ヒアリング実施。	実施	実施	—		

【評価できる点】
適切に市と情報共有を行っている点を確認しました。

【更なる取組を期待する点】
大規模改修に向けて、市との情報共有や詳細な打合せを引き続きお願いします。

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
6 収支 収支計画	収入(収入向上及び外部資金導入の努力)	1 ●ファンドレイジング活動の推進 □企業協賛金・助成金獲得	24,400千円 (協賛金 7,400千円 助成金 17,000千円)	8,955千円 (助成金3,575千円 企業協賛金5,380千円)	C	助成金交付方針が、公演の独自性や社会における波及力や地域・観光・産業振興への意義、効率などを重視する方針に転換したにもかかわらず、そうした方針に沿った事業を申請できなかったことが減額となった要因であると分析しました。	【成果】 助成金・協賛金ともに減額となりましたが、開館20周年ということで、財団本部からの資金を得て、ホールを広く発信し、盛り上げることに努めました。
	支出(適切な支出配分、コスト削減への努力)	2 ■管理センターと連携し、快適な利用環境とエネルギー消費最小化の両立に努め、光熱費を抑制 ■廃棄物の発生量削減に努め、廃棄に要するコスト削減	実施	実施	—	【課題】 不確定な部分がある補助金の金額が収支に影響しているため、安定的な経営のためには、補助金に頼らない収支構造の構築が必要と考えます。そのため、事業数や事業規模の再検討による収支バランスの見直しや、web等も活用した企画やホールの活動についての積極的な対外的なPRなども行っていきます。	

【評価できる点】
規模が大きく、光熱水費のコントロールが難しい施設において、利用者にとって快適な状態を保つよう気を配って、運営をしている点を評価します。

【更なる取組を期待する点】
平成30年度収支報告において約1,200万円の赤字となっています。収支バランスに配慮をした施設運営を行ってください。その際、事業数を単純に減にすることで、支出を減らすのではなく、今年度収入減だった点を回復する方向で検討してください。
特に、助成金の減額については、今後、目標とする金額を獲得するために、補助金申請についての研究を行ってください。
助成金、協賛金以外の収入確保については、事業収入等をはじめ、事業・運営・広報等様々な視点からの改善、取組を行ってください。

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
7 組織 組織	明確な責任体制の構築	■新たな組織図及びグループ毎の業務分担当表作成 □グループ長会議 毎週開催	実施	実施	—	適切に実施しました。	【成果】 コンサートホールには、安全で快適な施設運営や高い調整能力による貸館、満足度の高い利用者・来場者へのサービス、需要に応じた柔軟な方法によるチケット販売、そして公共ホールに求められる多岐にわたる事業企画・制作など、さまざまな専門業務が必要となりますが、専門性の高い職員の適切な配置により、安定したホール運営が実現しました。人材育成にあたっては当財団が運営する施設間での人事異動やホール内での業務異動により職員が経験を積めるよう配慮しました。 同時に、社会包摂を推進する音楽事業に取り組むなか、その第一人者のプロデューサーを起用することで、経験値の低い事業を補完し成果をあげることができました。 【課題】 引き続き、事業のプロデュースだけでなく、貸館、施設管理、広報顧客サービスなどホール運営に必要な専門人材の確保・育成に取り組めます。	【評価できる点】 安定したホール運営を行っている点を評価します。 【更なる取組を必要とする点】 競合する施設も多く、また、分野は異なりながらも、民間の新設ホールも増える中、横浜みなとみらいホールとしての専門性を発揮するためにどのような専門人材を育成するのか、それをどのように実現するのかという視点からの検証を行いながら、引き続き、人材育成に力を入れてください。
		□企画運営会議 毎週開催	実施	実施	—	適切に実施しました。		
	専門人材の確保と高い専門性を発揮できる組織	■各専門性に応じた適正な人員配置	実施	実施	—	適切に実施しました。		
		■チケットセンタースタッフについて、受付スタッフとの共通勤務とする。	実施	実施	—	適切に実施しました。		
人材育成		●MBOIによるOJTの積極的な実施。 ■MBOの目標設定、中間・期末評価において、各自の業務の進行確認を推進し、評価のフィードバックを適切に行う	実施	実施	—	適切に実施しました。		
		●ホール独自研修 レセプション研修【再掲】						
		新規配属職員への個人情報研修	年1回	年1回	B			
		●事務局研修への参加 ■事務局研修に積極的に参加できる体制構築	実施	実施	—	【成果】 職員は事業計画に基づく目標を設定し、具体的にその実施内容に取り組むことができました。 レセプションも研修を通してスキルアップに取り組みました。 【課題】 職員一人一人の育成にあたっては、財団の人材マネジメントポリシーに則って取り組むことが必要と考えています。		

評価項目		H30年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
8 留意事項 保険及び損害賠償の取扱い		■業務の基準に定められた内容で保険に加入する。(施設賠償責任者保険、動産総合保険、レジャーサービス費用保険)	実施	実施	—	適切に実施しました。	【成果】 これまでの経験により適切に業務を遂行できました。 【課題】 従前と同様、利用者・来場者の高齢化を踏まえ、ソフト面・ハード面での対応を検討していきます。	【評価できる点】 業務の基準に基づき、安全な運営が実施できている点を確認しました。 【更なる取組を必要とする点】 施設からの情報発信件数が多いことから必然的にリスクも高まることを都度、認識していただき、個人情報に係る事案を未然に防ぐためのチェック体制について引き続き確認を行ってください。
		■保険対応が必要な案件があった場合には速やかに対応。	実施	実施	—	適切に実施しました。		
法令の遵守と個人情報保護		■公の管理者としての法令遵守 ■個人情報取扱いマニュアルの周知徹底	実施	実施	—	適切に実施しました。	【成果】 日常業務においても個人情報取り扱いについて職員間で随時注意喚起を行う等、職員の意識付けを強化しました。また、新規職員配属の都度、個人情報に関する研修を実施する等、適切に実施しました。 【課題】 引き続き、適切に対応することが必要と考えています。	
		■マイナンバー制度事務取扱手順の徹底と事故防止 ■個人情報チェックリストによる点検実施	実施	実施	—	適切に実施しました。		
情報公開への積極的取組		■公の施設の管理者として説明責任を果たす観点から、横浜市、財団事務局との連携をはかり、情報公開を行う。	実施	実施	—	適切に実施しました。	【成果】 財団の情報公開請求規程に基づき、情報公開に対応する体制を整えています。情報公開請求の実績はありませんでした。 【課題】 引き続き、適切に対応することが必要と考えています。	
市及び関係機関等との連絡調整		■横浜市(政策協議会含む)や関連機関との情報共有 ■日頃の連携をはかり、報告等速やかに実施	実施	実施	—	適切に実施しました。	【成果】 モニタリング等の定例打ち合わせ以外にも適切に情報提供・情報交換を実施しました。 【課題】 引き続き、適切に対応することが必要と考えています。	

平成30年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	H30年度計画	実施状況	評価	
	達成指標	説明	自己評価	行政評価
総括	1		<p>平成30年度は開館20周年を機にこれまで蓄積してきた「来場者と来館者が安心して利用できる安全な施設提供と顧客サービスのノウハウ」「貸館のノウハウ」「公共ホールの使命に応えられる事業の企画制作力」など、さまざまなホール運営のノウハウをあらためて振り返り、それらが他に代えがたい財産となっていることを再認識し自信へとつながりました。また、さまざまなステークホルダーの要請に応じていくことの課題の大きさも共有することができました。</p> <p>横浜みなとみらいホールは、専門誌が三年に1度発表する「あなたの好きな演奏会場ランキング」で2014年に公共ホールで全国首位となって以来、常に上位ランキングされており、最新の2017年には全国7位となっています。公共ホールとしての役割を果たすために、引き続き、市民、音楽団体、音楽事業者といった直接的に施設利用や鑑賞に関わる方々の要請に応え、また地域、行政といった様々なステークホルダーの理解を得ながら、質の高いホール運営を実現していくことが課題であると考えています。</p>	<p>竣工21年目を迎え、ホール特有の専門的な設備も含めて、各所で老朽化が進む中、大きな事故なく施設運営を行っている点を評価します。</p> <p>平成30年度は開館20周年という記念すべき年であり、開館時から継続して実施している企画も多くある一方で、新たに取り組んだ企画もありました。特に、みなとみらいクラシック・マチネやオルガン1ドルコンサート等、人気企画として定着し、30年度も、変わることなく多くの方に来場をいただいている点を評価します。</p> <p>一方で、クラシック音楽ファンをターゲットとした企画や一部の海外オーケストラ等、集客に苦戦している企画もあります。市内唯一の音楽専門ホールである横浜みなとみらいホールでは、質の高い公演を市民の方に届ける役割を担う施設であり、公共施設として安定的な運営も求められる施設です。</p> <p>助成金の大幅な減等、困難な状況は多いですが、施設の魅力を損なうことなく、かつ、収支バランスに配慮した施設運営を引き続き期待します。</p>